

NY マーケットレポート（2014 年 4 月 8 日）

昨晚の NY 外国為替市場は、主要な米国の経済指標の発表がなく、新規材料に乏しい中、黒田日銀総裁が現時点で追加緩和を考えていないと発言したことが引き続き材料視され、円が主要通貨に対して上昇する動きとなりました。また、欧米の株価が軟調な動きとなったことも材料視され、終盤まで円買いの流れが続きました。ドルは主要通貨に対して軟調な動きとなり、ドル/円は一時 101.56 まで下落し、3 月 19 日以来約 3 週間ぶりの安値を付ける動きとなりました。終盤には株価がプラス圏まで値を戻したことから、ドル円・クロス円も値を戻す動きとなりました。

2014/ 4/ 8 (火)

TOKYO	東京終値	東京高値	東京安値
USD/JPY	102.79	103.12	102.62
EUR/JPY	141.48	141.71	141.15
GBP/JPY	171.05	171.28	170.74
AUD/JPY	95.77	95.89	95.31
EUR/USD	1.3763	1.3764	1.3737

LONDON	LD高値	LD安値
USD/JPY	102.80	102.35
EUR/JPY	141.50	140.90
GBP/JPY	171.57	170.92
AUD/JPY	95.86	95.45
EUR/USD	1.3784	1.3760

*LD高安は東京クローズ～NYオープンまでの高安

アジア主要株価	終値	前日比
日経平均	14606.88	-201.97
ハンセン指数	22596.97	+219.82
上海総合	2098.28	+39.45
韓国総合指数	1993.03	+3.33
豪ASX200	5410.63	-3.10
インドSENSEX指数	22343.45	-16.05
シンガポールST指数	3204.09	+10.50

欧州主要株価	終値	前日比
英FT100	6590.69	-32.15
仏CAC40	4424.83	-11.25
独DAX	9490.79	-20.06
ST欧州600	333.89	-1.07
西IBEX35指数	40480.50	-125.70
伊FTSE MIB指数	21667.05	-321.29
南ア 全株指数	48069.53	+211.58

NEW YORK	NY終値	NY高値	NY安値
USD/JPY	101.78	102.39	101.56
EUR/JPY	140.39	141.15	140.08
GBP/JPY	170.42	171.30	170.02
AUD/JPY	95.25	95.60	95.03
NZD/JPY	88.25	88.81	88.06
EUR/USD	1.3795	1.3812	1.3773
AUD/USD	0.9357	0.9365	0.9327

米主要株価	終値	前日比
米ダウ平均	16256.14	+10.27
S&P500	1851.96	+6.92
NASDAQ	4112.99	+33.24
その他主要株	終値	前日比
カナダトロント総合	14372.45	+102.12
ブラジルボルサ指数	40906.83	+311.13
ロシアモスクワ指数	51629.07	-526.21

4/9 経済指標スケジュール

08:01 【英】3月BRC店頭価格指数
 09:30 【豪】4月ウェストバック消費者信頼感指数
 10:30 【豪】2月住宅ローン約定件数
 14:00 【日】日銀・金融経済月報
 15:00 【独】2月経常収支
 15:00 【独】2月貿易収支
 16:30 【スウェーデン】政策金利発表
 17:30 【英】2月商品貿易収支
 20:00 【米】MBA住宅ローン申請指数
 20:30 【ポーランド】政策金利発表(時間不確定)
 22:00 【メキシコ】3月消費者物価指数
 23:00 【米】2月卸売売上高
 23:00 【米】2月卸売在庫
 03:00 【米】FOMC議事録公表

コモディティ	終値	前日比
NY GOLD	1309.10	+10.80
NY 原油	102.56	+2.12
CMEコーン	507.00	+7.75
CBOT 大豆	1482.50	+18.25

米国債利回り	本日	前日
2年債	0.40%	0.40%
3年債	0.85%	0.85%
5年債	1.66%	1.68%
7年債	2.24%	2.26%
10年債	2.68%	2.69%
30年債	3.54%	3.55%

4/9 主要会議・講演・その他予定

・シカゴ連銀総裁 講演
 ・タルーロFRB理事 講演
 ・米10年債入札

(出所:SBILM)

NY 市場レポート

21:00

ドル/円 103.38 ユーロ/円 141.04 ユーロ/ドル 1.3776

21:00

欧州株式市場・米株価指数先物

欧州主要株価	株価	前日比	米株価先物	株価	前日比
英 FT100	6565.26	-57.58	ダウ INDEX FUTURE	16148	-30
仏 CAC40	4401.74	-34.34	S&P500 FUTURE	1834.40	-3.70
独 DAX	9442.78	-68.07	NASDAQ FUTURE	3495.00	-4.25

(出所:SBILM)

21:13

《 経済指標の結果 》

3月カナダ住宅着工件数 15.68万件（予想 19.20万件・前回 19.06万件）前回発表の19.21万件から19.06万件に修正



(出所:ブルームバーグ)

21 : 30

《 経済指標の結果 》

2 月カナダ住宅建設許可（前月比） -11.6%（予想 -2.6%・前回 8.1%）前回発表の8.5%から8.1%に修正



(出所:ブルームバーグ)

22 : 00

《 経済指標の結果 》

1 月メキシコ総設備投資 -2.4%（予想 -1.0%・前回 0.7%）



(出所:ブルームバーグ)

22 : 00

IMF 最新の世界経済見通しを発表

- ・「2014 年の米成長率見通し 2.8%、2015 年 3%に据え置き」
- ・「2014 年のユーロ圏成長率見通し 1.2%に、1 月予想から上方修正」
- ・「2014 年の日本の成長率 1.4%に、1 月の予想 1.7%から下方修正」
- ・「2014 年の英成長率見通し 2.9%に上方修正、金融緩和は維持を」
- ・「2014 年の新興国成長率 4.9%に、1 月の予想 5.1%から下方修正」
- ・「2014 年の中国成長率見通し 7.5%、15 年 7.3%に据え置き」
- ・「2014 年のロシア成長率見通し 1.3%に下方修正」
- ・「ロシアが逆風に見舞われる中、新興国の成長見通し下方修正」
- ・「世界経済にとって米国の成長が主要な刺激」
- ・「年末までのユーロ圏のデフレの可能性を約 20%と予想」
- ・「ユーロ圏はさらなる金融緩和を今必要としている」

《 NY 外国為替市場 序盤 》

序盤の外国為替市場は、米国の主要な経済指標の発表が乏しい中、黒田日銀総裁が現時点では追加緩和を考えていないと述べたことを受けて円買いドル売りとなった流れを引き継ぎ、ドル円・クロス円は軟調な展開が続いている。

22 : 33

米主要株価

米主要株	株価	前日比
ダウ平均	16222.81	-23.06
ナスダック	4085.00	+5.25

(出所: SBILM)

23 : 00

《 経済指標の結果 》

3 月英 NIESR GDP 予想 0.9% (前回 0.9%) 前回発表の 0.8% から 0.9% に修正



(出所:ブルームバーグ)

23 : 01

《 経済指標の結果 》

2 月米 JOLT 労働調査[求人件数] 417.3 万件 (予想 402.5 万件・前回 387.4 万件)
前回発表の 397.4 万件から 387.4 万件に修正



(出所:ブルームバーグ)

《 経済指標のポイント 》

米 2 月の求人件数は、季節調整済みで前月比+29 万 9000 件の 417.3 万件と、2008 年 1 月以来 6 年ぶりの高水準に達し、米雇用市場が着実に改善していることを示唆した。また、離職者も 3 ヶ月ぶりに増加し、労働市場の改善へ対する自信が高まっていることを裏付けた。

《ポイント》

IMF は、世界経済見通しを発表した。消費税増税に踏み切った 2014 年の日本 GDP 成長率を、1 月時点から 0.3 ポイント下方修正し 1.4%と予測。円安や海外経済の回復にもかかわらず、成長率が想定通り伸びていないことが見通しの下方修正につながった。IMF は輸出や民間投資が今後上向くとみているが、消費税増税に伴う景気減速が見込まれるため、2015 年は 1.0%成長にとどまるとした。

世界経済が直面するウクライナ情勢など地政学的リスクの高まりに警戒感を示し、不確実な政治情勢を反映し投資が手控えられているとし、ロシアの成長率見通しを大きく引き下げた。また、地域の緊張が高まれば近隣国にも影響が及ぶと懸念。そして、世界の金融市場の混乱を招き、天然ガスや原油、穀物などの生産や輸送が途絶えることが心配されるとした。

世界全体の成長率は 0.1 ポイント引き下げ 3.6%をとした。見通しが一段と悪化する可能性はやや後退したが、新興国市場の不安定化や欧州のデフレリスクを懸念材料として掲げ、世界経済の回復力は依然として弱いと分析した。新興国では金利上昇に伴う内需の伸び悩みが課題になると指摘、中国とインドの成長率見通しを据え置いた。

23 : 30

《 NY 株式市場 序盤 》

序盤の株式市場は、東京、欧州の株式市場の下落を嫌気した売りが先行する一方で、ダウ平均が前日まで 3 営業日続落したことで割安感が出た銘柄を買う動きも出て、序盤から売り買い交錯する展開が続いている。

《海外の話題》

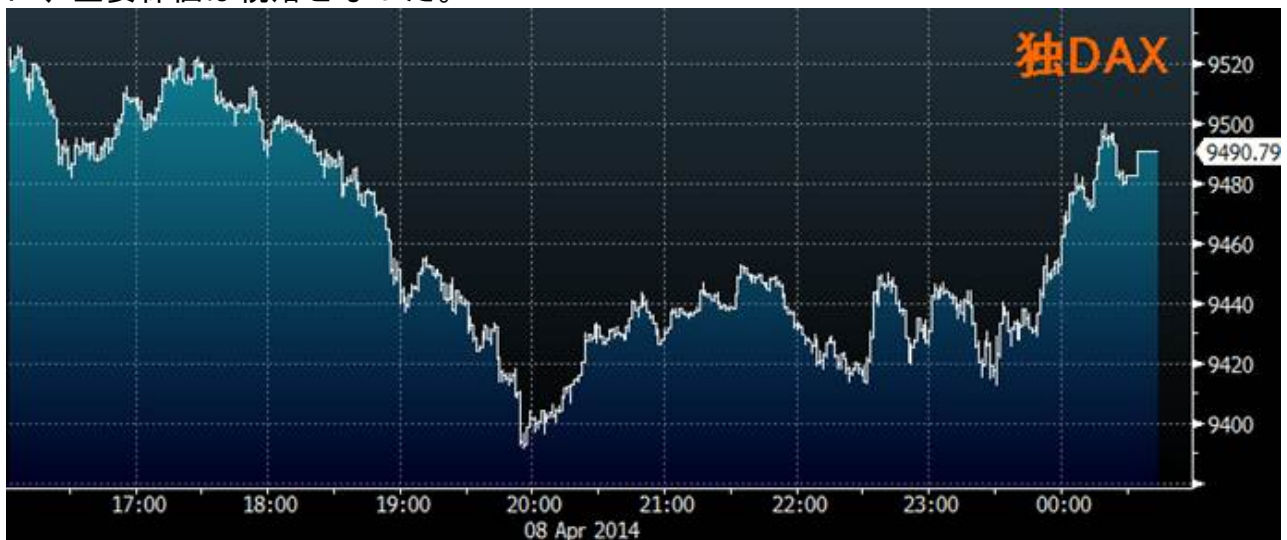
ロシアは、過去 6 週間で 5 度目となる国債入札の取りやめを発表した。財務省がウェブサイトに掲載した声明によると、「現在の市場環境」が理由。ウクライナ東部での抗議活動を背景に国債利回りは前日、3 週間ぶりの大幅上昇となっていた。

欧州主要株価	終値	前日比
英 FT100	6590.69	-32.15
仏 CAC40	4424.83	-11.25
独 DAX	9490.79	-20.06
ストック欧州 600 指数	333.89	-1.07
ユーロファースト 300 指数	1333.28	-2.62
スペイン IBEX35 指数	40480.50	-125.70
イタリア FTSE MIB 指数	21667.05	-321.29
南ア アフリカ全株指数	48069.53	+211.58

(出所:SBILM)

《欧州株式市場》

欧州株式市場は、緊迫化するウクライナ情勢や、欧州企業の業績悪化への警戒感を背景に、主要株価は続落となった。



(出所:ブルームバーグ)

1 : 00

米主要株価・中盤

ダウ 16283.63 (+37.76)、S&P500 1849.30 (+4.26) ナスダック 4108.91 (+29.16)

《 NY 債券市場 ・ 午前 》

午前の債券市場は、主要な米経済指標の発表がなく手掛かり材料に乏しい上、午後の3年債から始まる今週の一連の米国債入札を控えて様子見ムードも強く、前日の終値付近で小幅な値動きとなった。

午前の利回りは、30年債が3.56%（前日3.56%）、10年債が2.71%（2.70%）、7年債が2.27%（2.27%）、5年債が1.68%（1.68%）、3年債が0.85%（0.85%）、2年債が0.40%（0.40%）。

《欧州のポイント》

①ドイツ国債を基にするインフレ期待指数は、約2年ぶりの低さとなった。2月時点の水準を16bp上回っており、2009年以来の低水準に先月下がったインフレ率をECBが押し上げる措置を講じるとの見方が広がっていることが要因となっている。先週、必要ならば追加措置も辞さないとするECBによる姿勢が示されており、当局者らはQEについても初めて話し合っており、向こう数ヵ月で何をするかに注目が集まっているとの指摘も出ている。

②ドイツ連銀（中央銀行）は、IMFの春季会合やG20会合で、ユーロ圏で長引く低インフレや、それに付随する世界経済へのリスクが主要議題になるとの見通しを示した。IMFは、ウクライナなどの地政学リスクや市場のボラティリティに加え、低インフレが短期的に世界成長への足かせになる恐れがあるとの懸念から、ECBに対し低インフレリスクに対処するための追加緩和の実施を求めてきている。独連銀は、IMFの提言を認識しつつも、ユーロ圏の金融政策はすでに極めて緩和的と強調した。ドンブレト理事は「インフレ率が過度に長期間、低水準にとどまるようであれば、ECBは行動に向け必要な手段を有している」と表明。ただ、ECBの措置に伴うリスクについても見極めが必要との考えを示した。

③IMFの「世界経済見通し」で、2014年のトルコのGDP伸び率を10月時点の予想3.5%から2.3%に下方修正した。借り入れコストの増大や通貨安、個人消費の大幅低下が成長を下押しするとしている。IMFは2013年のトルコ経済について、引き続き外需主導の新興欧州諸国とは異なり、個人消費が回復をけん引したと指摘。だが2014年については「マクロプルデンシャル措置や著しい為替相場の調整、利上げを背景に、主に個人消費が大幅減速し成長が弱まる」としている。

2014年のインフレ率見通しを7.8%とし、10月時点の5.3%から引き上げた。2015年は6.5%に鈍化すると予想している。トルコ経済の弱点とされる経常赤字は、昨年のGDP比7.9%から今年は6.3%に、2015年には6.0%に低下する見通し。

《ここまでの動き》

米ドル・円、10分足、#100



(出所: ネットダニアー)

- ①黒田日銀総裁は、4月以降消費増税に伴う駆け込みの反動が出始める可能性があるものの、基調的に緩やかな回復が続くとの見方を示し、追加緩和は「現時点で考えていない」と述べたことを受けて、円が主要通貨に対して堅調な動きとなった。
- ②米国の主要な経済指標の発表がなく、新規材料に乏しい中、引き続き黒田日銀総裁発言や再び緊迫化するウクライナ情勢への懸念が材料視された。また、上値の重い米株価動向や日経225(CME)が2%以上下落していることから、円買いの流れが続いた。
- ③その後、米株価がプラス圏に値を戻したことから、落ち着いた動きも見られたものの、やや株価動向に左右される展開が続いている。

2:00

《米財務省3年債入札》

最高落札利回り・・・0.895% (前回 0.802%)
 最低落札利回り・・・0.819% (前回 0.740%)
 最高利回り落札比率・・・10.58% (前回 16.92%)
 応札倍率・・・3.36倍 (前回 3.25倍)

3:20

新規材料に乏しい中、米株価動向に冕冠に反応する動きが続いており、米ダウ平均株価が再びマイナス圏まで下落したことを受けて、USD/JPYは101.56まで下落し、3月19日以来の安値を付ける動きとなった。



(出所:ブルームバーグ)

3 : 40

NY 金は、中心限月が前日比 10.80 ドル高の 1 オンス=1309.10 ドルで取引を終了した。

4 : 20

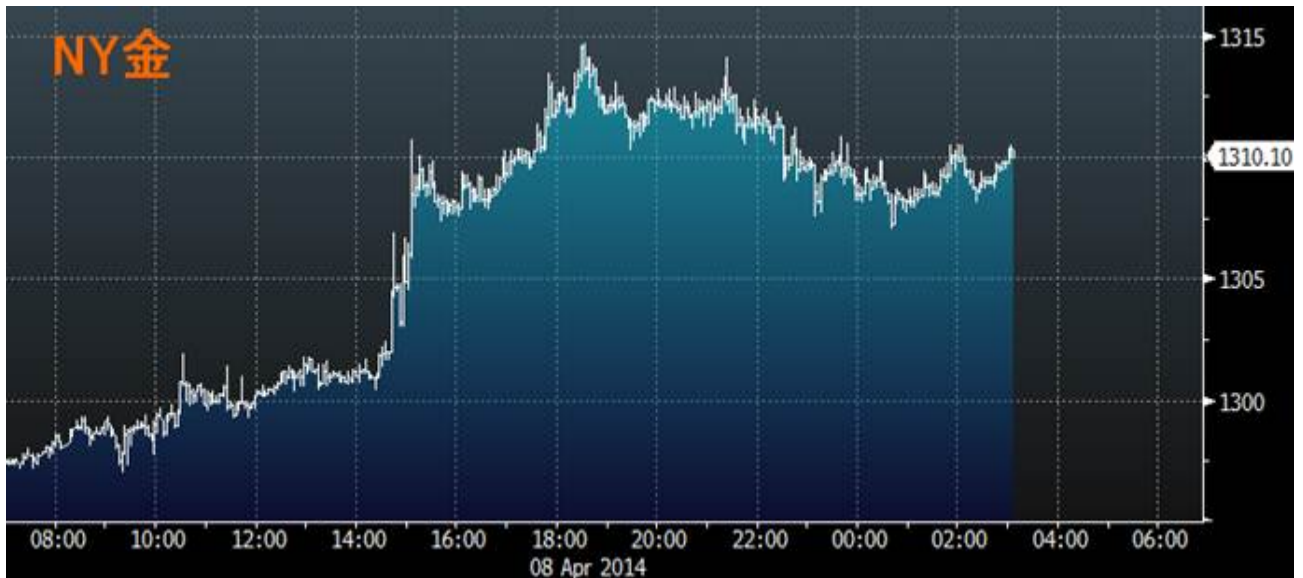
NY 原油は、中心限月が前日比 2.12 ドル高の 1 バレル=102.56 ドルで取引を終了した。

主要商品	終 値	前日比
NY GOLD	1309.10	+10.80
NY 原油	102.56	+2.12

(出所:SBILM)

《 NY 金市場 》

NY 金は、ウクライナ情勢をめぐるロシアと欧米との緊張が再び高まるとの懸念から、比較的安全な資産とされる金を買う動きが広がった。また、ドルが主要通貨に対して下落し、ドル建てに割安感が出たことも支援材料となった。終値ベースでは、3 月 25 日以来、2 週間ぶりの高値水準となった。



(出所:ブルームバーグ)

《 NY 原油市場 》

NY 原油は、ウクライナをめぐる欧米がロシアに対する経済制裁を強化すれば、ロシアからの原油供給に支障が出るとの懸念が再燃し、買いが膨らんだ。9 日に発表される米石油在庫統計で、WTI 原油の引き渡し地点の在庫減少が見込まれることも押し上げ材料となった。終値ベースで、3 月上旬以来、約 1 ヶ月ぶりの高値水準となった。



(出所:ブルームバーグ)

主要株価	終値	前日比	高値	安値
ダウ平均株価	16256.14	+10.27	16296.86	16180.28
S&P500 種	1851.96	+6.92	1854.95	1837.49
ナスダック	4112.99	+33.24	4120.24	4066.11

(出所: SBILM)

《米株式市場》

米株式市場は、米国の主要な経済指標の発表がなく、新規材料に乏しい中、東京、欧州の株式市場の下落を嫌気した売りが先行した。しかし、ダウ平均が前日まで3営業日続落したことで割安感が出た銘柄を買う動きも出て、その後は売り買い交錯する展開が終盤まで続いた。ダウ平均株価は、序盤から売り買い交錯する動きとなり、レンジ内でのみ合いの展開が終盤まで続いた。



(出所: ブルームバーク)

主要通貨	NY 終値	NY 高値	NY 安値
USD/JPY	101.78	102.39	101.56
EUR/JPY	140.39	141.15	140.08
GBP/JPY	170.42	171.30	170.02
AUD/JPY	95.25	95.60	95.03
NZD/JPY	88.25	88.81	88.06
EUR/USD	1.3795	1.3812	1.3773
AUD/USD	0.9357	0.9365	0.9327

(出所: SBILM)

《外国為替市場》

外国為替市場は、米国の主要な経済指標の発表がなく、新規材料に乏しい中、日銀総裁が現時点で追加緩和を考えていないと発言したことが引き続き材料視されたことや、欧米の株価がやや軟調な動きとなったことを背景に、円買いが優勢となった。ドル/円は、一時3月19日以来約3週間ぶりの安値を付ける動きとなった。



(出所:ブルームバーグ)

提供: SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。